

## 2009年度 第3四半期 決算説明会

(2009年4月～12月)

富士フイルム ホールディングス株式会社  
2010年1月29日



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

世界同時不況の影響を受け、厳しい経営環境が続いています。  
中国をはじめとするアジア、その他の新興国では回復傾向にあります。  
日本では景気は持ち直しつつありますが、デフレ、為替の円高や景気の下振れ懸念など、先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社はこのような中、重点事業分野の成長戦略の再構築を推進するとともに、強靱な企業体質構築に向け、集中的に構造改革を断行し、徹底したコストダウン・経費削減を実施しております。

それでは、第3四半期の決算概況をご説明致します。

## 2009年度第3四半期連結業績

FUJIFILM

為替円高に加え、世界不況に伴う需要の減少  
構造改革を強力に推進

(単位:億円)

	2008年度 第3四半期		2009年度 第3四半期		増減		2008年度 9ヶ月累計		2009年度 9ヶ月累計		増減	
					金額	%					金額	%
売上高	100.0%	5,657	100.0%	5,536	-121	-2.1	100.0%	19,042	100.0%	15,971	-3,071	-16.1
構造改革費用前 営業利益	0.7%	42	6.7%	370	328	-	4.7%	895	4.0%	636	-259	-29.0
構造改革費用	0.5%	29	5.6%	308	279	-	0.4%	70	4.2%	660	590	-
構造改革費用後 営業利益	0.2%	13	1.1%	62	49	-	4.3%	825	-0.2%	-24	-849	-
税金等調整前 四半期純利益	-4.5%	-254	1.3%	72	326	-	3.0%	563	-0.0%	-7	-570	-
当社株主帰属 四半期純利益	-2.8%	-159	-0.3%	-16	143	-	1.5%	295	-0.4%	-70	-365	-
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益		-31.99円		-3.24円		28.75円		58.64円		-14.31円		-72.95円
為替 :米ドル		97円		90円		-7円		103円		93円		-10円
:ユーロ		128円		133円		+5円		151円		133円		-18円

1

### 【第3四半期】

2009年度第3四半期(3ヶ月)の連結売上高は、5,536億円、前年同期比2.1%減となりました。

売上高の減少額121億円に占める為替の円高影響は124億円ですので、為替影響を除くと、ほぼ前年同期並となります。

構造改革費用前営業利益は、フラットパネルディスプレイ材料の売上が急回復し、電子映像事業の損益も改善したことから370億円。構造改革費用308億円を計上しましたので、構造改革費用後営業利益は62億円となりました。

### 【9ヶ月累計】

2009年度9ヶ月累計の連結売上高は、1兆5,971億円、前年同期比16.1%減となりました。売上高の減少額3,071億円に占める為替の円高影響は895億円です。

構造改革費用前営業利益は、売上の減少や為替の円高による減益影響などにより、636億円、前年同期比29.0%減、構造改革費用は660億円、構造改革費用後営業利益は、24億円の損失となりました。

## 2009年度第3四半期連結業績

FUJIFILM

### ■ セグメント別内訳

(単位:億円)

	セグメント	2008年度 第3四半期	2009年度 第3四半期	増減	増減率 (%)	2008年度 9ヶ月累計	2009年度 9ヶ月累計	増減	増減率 (%)
売上高	イメージング	1,052	972	-80	-7.6	3,364	2,666	-698	-20.7
	インフォメーション	1,964	2,219	255	13.0	7,379	6,520	-859	-11.6
	ドキュメント	2,641	2,345	-296	-11.2	8,299	6,785	-1,514	-18.2
構造改革費用前 営業利益	イメージング	-13	34	47	-	-88	-79	9	-
	インフォメーション	-119	146	265	-	379	359	-20	-5.5
	ドキュメント	182	198	16	8.5	633	384	-249	-39.3
構造改革費用	イメージング	7	29	22	-	-9	124	133	-
	インフォメーション	9	240	231	-	35	404	369	-
	ドキュメント	13	39	26	-	44	132	88	-
全社費用及び セグメント間取引消去	合計	-8	-8	0	-	-29	-28	1	-
構造改革費用後 営業利益	合計	13	62	49	-	825	-24	-849	-

2

セグメント別の内訳についてはご覧の通りです。

#### 【第3四半期】

第3四半期の連結売上高は、インフォメーションソリューションで**13%増加**しておりますが、主にフラットパネルディスプレイ材料が対前年で**164%増加**したことによるものです。

構造改革費用前営業利益は、3セグメントのいずれも増益となりました。電子映像事業の損益改善、フラットパネルディスプレイ材料事業の売上の急回復や各セグメントでの経費削減をはじめとするコストダウンの効果が増益に寄与しました。

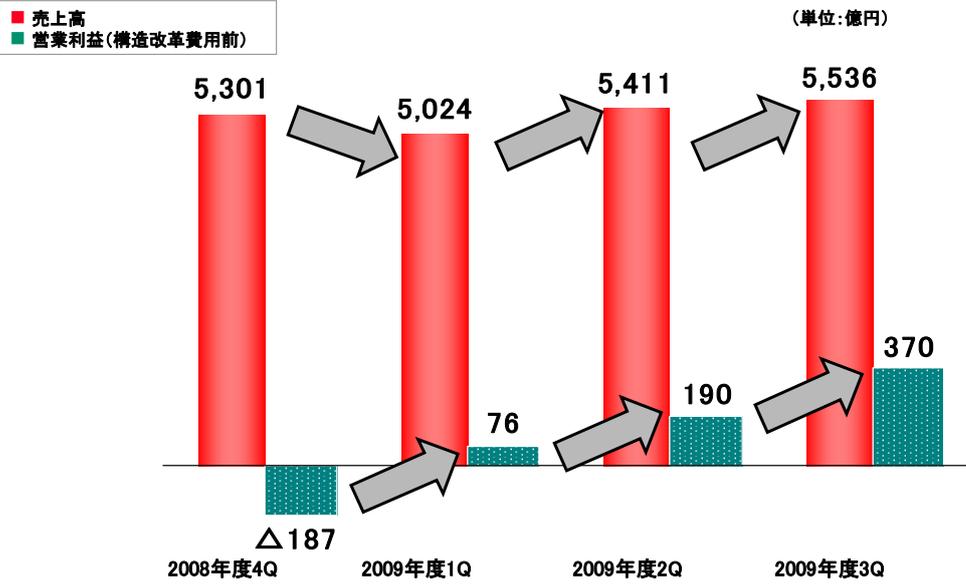
#### 【9ヶ月累計】

9ヶ月累計の状況については後ほどご説明致します。

## 2009年度第3四半期連結業績

FUJIFILM

### 売上高・営業利益ともに回復基調



3

四半期毎の売上高と構造改革費用前営業利益の推移はご覧のグラフの通りです。

売上高・営業利益ともに回復傾向にあります。

## 構造改革の進捗

FUJIFILM

### 計画を上回るペースで順調に進捗

(単位:億円)

【内訳】

	9ヶ月実績	人員関連	資産関連
イメージング	124	70	54
インフォメーション	404	120	284
ドキュメント	132	95	37
構造改革費用計	660	285	375

国内外各社における人員スリム化、現像所統廃合、カラーペーパー製造工程の一部停止(オランダ)など

国内外各社における人員スリム化、資産(設備、無形固定資産)圧縮など

経営革新活動

### 4Qで構造改革費用 790億円計上し 年間で計画通り1,450億円計上予定

#### イメージング・インフォメーション

- ✓ 欧・米・中国・アジア等エリア毎に各現地法人の間接機能を地域本社に集約
- ✓ フォト事業を中心とした固定費の大幅削減 など (国内外の全てのグループ会社の全部門・全事業を対象)

#### ドキュメント

- ✓ 経営革新活動の加速
- ・ R&D機能の再編・集約
- ・ 生産機能の最適化、原価低減の徹底推進

次に、全社・全事業で強力に推進しています構造改革の進捗についてご説明します。

構造改革費用は9ヶ月累計で、**660億円**を計上しました。計画を上回るペースで順調に進捗しています。

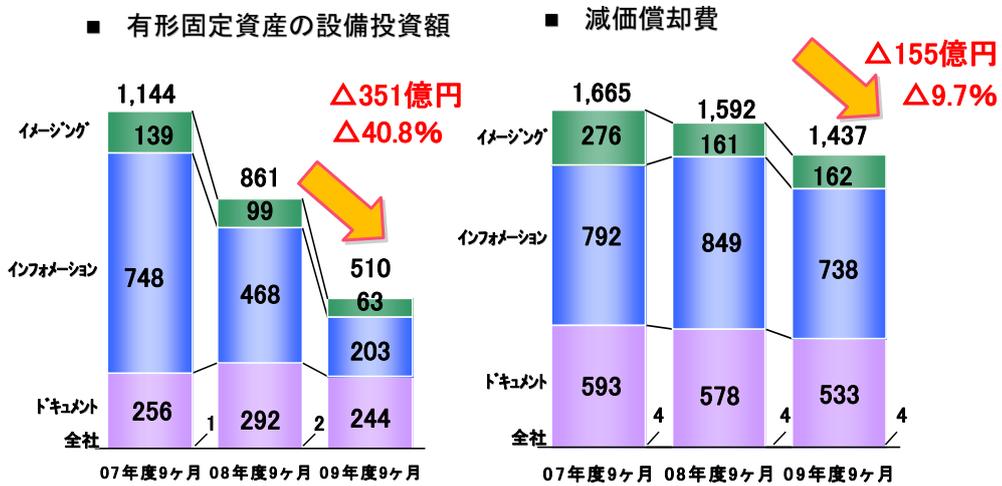
第4四半期では、イメージング、インフォメーションにおいて、欧米等の各現地法人の再編を実施するとともに、フォト事業を中心とした固定費の大幅削減を行います。後ほどご説明致しますが、ドキュメントでは経営革新活動の一環として新たにR&Dの機能の再編・集約等を大規模に実施します。

これらの施策を実施することで、第4四半期では構造改革費用**790億円**を計上し、年間で計画通り**1,450億円**を計上する予定です。

## 設備投資額と減価償却費

FUJIFILM

設備投資選別強化により設備投資・減価償却費は減少



5

設備投資と減価償却費に関しましては、昨年より設備投資計画を徹底して見直し必要最低限のテーマに絞っております。9ヶ月累計の設備投資額は、前年に比べ**40.8%削減**し、**510億円**となりました。

これまで実施した設備の減損や250%定率法の採用など減価償却の加速化の効果により、減価償却費は**1,437億円**と対前年同期で**155億円減少**しました。

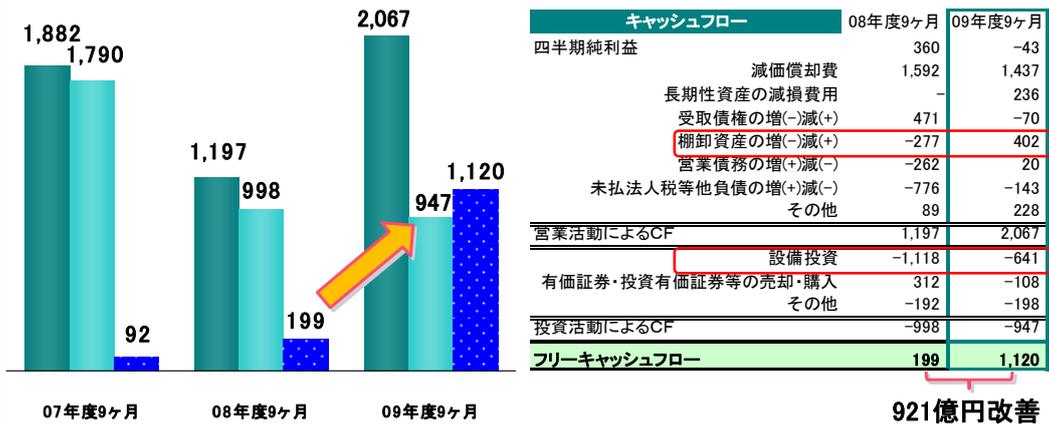
# キャッシュフロー

FUJIFILM

ROE改善へ向け事業を「事業ROA」・「事業付加価値」・「事業CF」で管理。  
設備投資の選択と在庫削減によりフリーキャッシュフローは大幅に改善

■ 営業活動CF ■ 投資活動CF ■ フリーキャッシュフロー

(単位:億円)



6

キャッシュフローですが、構造改革を進めると同時に、事業毎にROA、事業付加価値の目標値を設け、資産効率改善に積極的に取り組んでいることから、フリーキャッシュフローは大幅に改善しています。

営業活動によるキャッシュ・フローは、在庫削減などにより、前年同期と比べ870億円増の2,067億円のプラスとなりました。

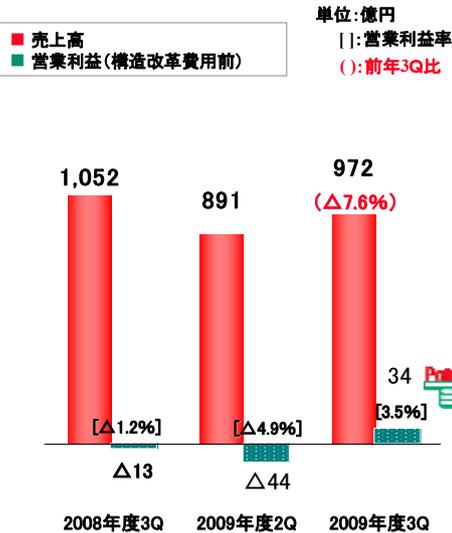
投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資の見直しなどにより前年同期に比べ51億円減の947億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、構造改革に伴う支出を吸収した上で、前年に比べ921億円改善し、1,120億円となりました。

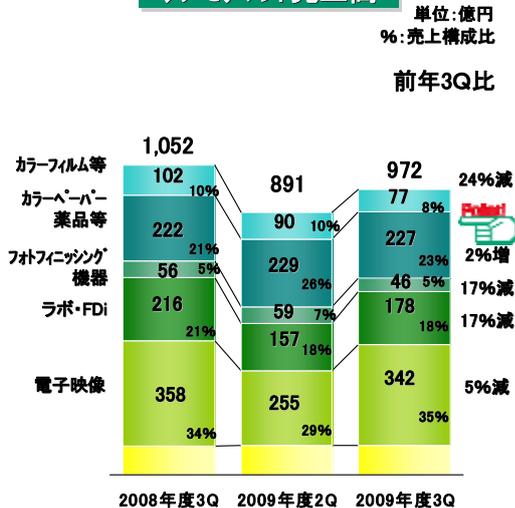
# 事業別セグメント情報（第3四半期）

## ■ イメージング ソリューション

### 売上高\*・営業利益



### サブセグメント売上高



\*セグメント間取引消去後

次に、第3四半期(3ヶ月)のセグメント別の状況についてご説明します。

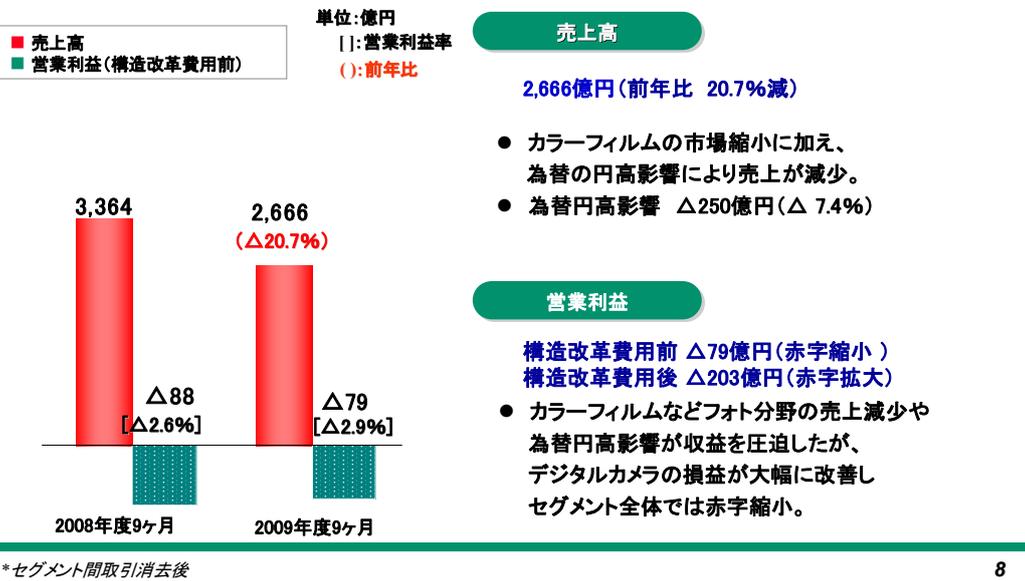
まずイメージングソリューション部門の3ヶ月間の連結売上高は、フィルムの需要減の影響はあったものの、カラーペーパーのシェアアップにより売上高は972億円、前年同期比7.6%減に留まりました。右のグラフの通り、カラーペーパーの売上が前年同期比で2%増加しております。

一方、構造改革費用前営業利益については、デジタルカメラの損益が大幅に改善したことから左のグラフで示すように黒字化しました。

# 事業別セグメント情報（9ヶ月）

## ■ イメージング ソリューション

### 売上高\*・営業利益



当部門の9ヶ月累計での状況についてご説明します。

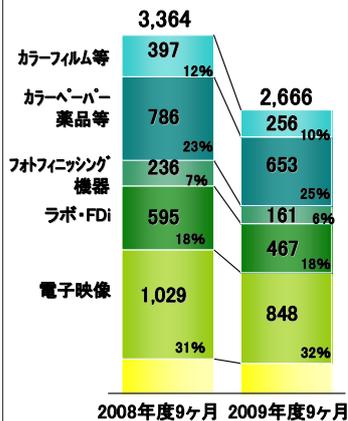
連結売上高については、カラーフィルムなどの需要の減少や為替の円高影響などにより、2,666億円、前年同期比20.7%減となりました。

構造改革費用前営業利益につきましては、カラーフィルムなどフォト分野の売上減少や為替の円高影響が収益を圧迫しましたが、デジタルカメラの損益が大幅に改善したことから、赤字が縮小しました。

# 事業別セグメント情報（9ヶ月）イメージングソリューション FUJIFILM

## サブセグメント売上高

単位：億円  
%：売上構成比



**カラーフィルム等** 256億円（前年比：36%減）

- 市場縮小による売上減少が継続するが、当社市場シェアは上昇。

**カラーペーパー・薬品等** 653億円（前年比：17%減）

- 他社との競争が激化する中、フォトブックなど付加価値プリントの販売促進施策を引き続き強化し、シェアアップを推進中。

**電子映像** 848億円（前年比：18%減）

- 単価下落や円高の影響を受け、売上高は減少。
- 部材コストダウンや固定費の圧縮及び在庫削減が功を奏し、事業営業利益は黒字化。
- 新興国をはじめ欧州等でもエントリーモデルの販売が好調。
- 9ヶ月累計でのデジタルカメラ販売台数は、ワールドワイドで720万台(前年比：7%増) エントリーモデルの販売台数は240万台。

当部門の事業別セグメントの状況についてご説明します。

カラーペーパーは、需要縮小や為替の円高などにより売上が減少したものの「フォトブック」など付加価値プリントの販売促進をはじめ、拡販諸施策により主要国においてシェアアップしています。

電子映像事業は、為替の円高や価格下落の影響を受け売上が減少しましたが新興国をはじめ欧米などでコスト競争力を強化したエントリーモデルが好調でした。販売台数はトータルで720万台、うちエントリーモデルは240万台でした。

パーツや購入品のコストダウンや固定費の圧縮・在庫削減などの事業構造改革を徹底して行ったことで採算性が大幅に改善し、事業営業利益は黒字となりました。

電子映像事業

独自技術を活かした高付加価値差別化商品から新興国向けモデルまで  
ラインアップを強化

FinePix F70EXR (2009年8月発売)

- ✓人間の眼のメカニズムに近づけた  
画期的な「スーパーCCDハニカムEXR」を搭載



FinePix F70EXR

FinePix REAL 3D System (2009年8月発売)

- ✓高画質で自然な3D映像を簡単に撮影、専用メガネ  
不要で鑑賞できる世界初の「3Dデジタル映像システム」



3Dデジタル映像システム  
FUJIFILM FinePix REAL 3D System

新興国向けモデル(2009年7月以降順次発売)

- ✓100ドル以下という低価格で販売地域毎に好まれる  
機能・デザインを実現



新興国向けモデル「A170」  
1000万画素 3倍ズーム

スライドNo.10に、デジタルカメラの今年度に発売した新製品をまとめました。

スーパーCCDハニカムEXR搭載機種や3Dデジタル映像システム等、独自技術を活かした高付加価値差別化商品から新興国向けモデルまでラインアップを強化し、当初計画を上回る900万台以上の販売台数を達成する見込みです。

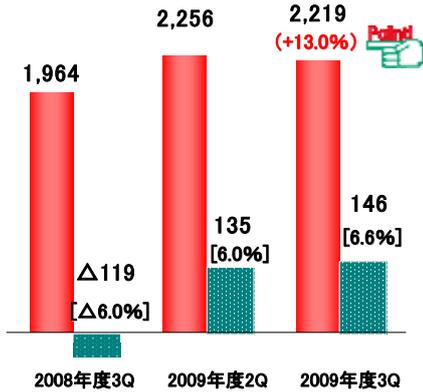
# 事業別セグメント情報（第3四半期）

## ■ インフォメーション ソリューション

### 売上高\*・営業利益

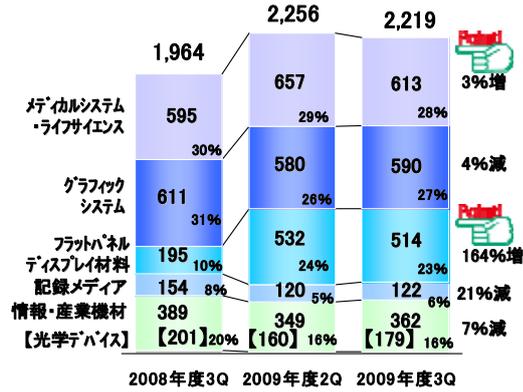
■ 売上高  
■ 営業利益(構造改革費用前)

単位:億円  
□:営業利益率  
( ):前年3Q比



### サブセグメント売上高

単位:億円  
%:売上構成比  
前年3Q比



\*セグメント間取引消去後

次にインフォメーションソリューション部門です。

当部門の3ヶ月間の連結売上高は、医用画像情報ネットワークシステムやヘルスケア製品の販売が伸長したメディカルシステム・ライフサイエンス事業の売上が増加したことに加え、フラットパネルディスプレイ材料の売上が大幅に増加したことにより、2,219億円、前年同期13.0%増となりました。

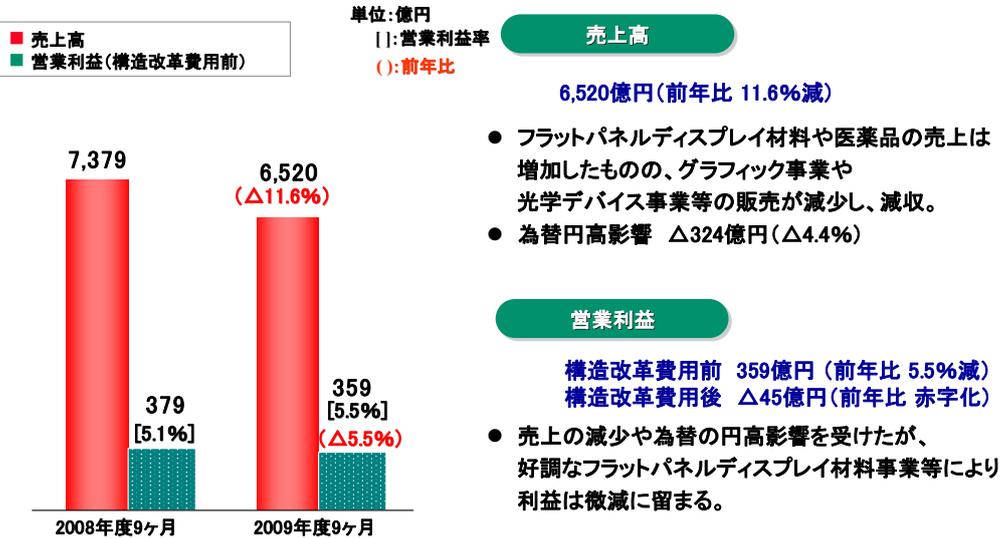
構造改革費用前営業利益については、フラットパネルディスプレイ材料の売上の増加やグラフィックシステム等の損益改善により、増加しています。

## 事業別セグメント情報（9ヶ月）

FUJIFILM

### ■ インフォメーション ソリューション

#### 売上高\*・営業利益



\*セグメント間取引消去後

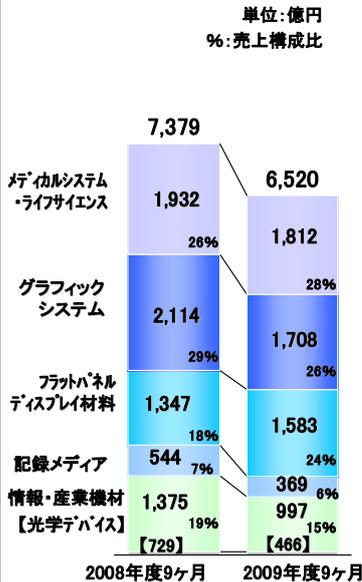
12

当部門の9ヵ月累計の連結売上高ですが、フラットパネルディスプレイ材料や医薬品の売上げが増加したものの、世界同時不況の影響を受け、グラフィックシステム事業や光学デバイス事業等の売上が減少したことにより、6,520億円、前年同期比11.6%減となりました。

構造改革費用前営業利益は、359億円、前年同期比5.5%減となりました。売上の減少や為替の円高影響を受けましたが、フラットパネルディスプレイ材料事業が好調に推移し、減益率は5.5%に留まりました。

# 事業別セグメント情報（9ヶ月）インフォメーションソリューション FUJIFILM

## サブセグメント売上高



### メディカルシステム・ライフサイエンス

1,812億円（前年比：6%減）

- 新興国市場で先行発売した低価格・小型FCR「FCR PRIMA」を日・米・欧にも展開し、拡販を推進中。
- デジタルX線画像診断装置「CALNEO」シリーズを発売する等、高付加価値製品のラインアップ拡充により販売を強化。
- 「SYNAPSE」等の医用画像情報ネットワークシステムの売上は順調に拡大。
- 医薬品では、09年10月にインフルエンザ治療薬「T-705」が国内でフェーズⅢ臨床試験を開始した他、「ゾシン\*」、「ジェニナック\*\*」の販売が好調に推移。

### グラフィックシステム

1,708億円（前年比：19%減）

- 印刷需要が減少し、印刷材料全般で売上が減少。中国・東南アジアでは刷版の需要が回復傾向。
- ワイドフォーマットUVインクジェットシステムは、ハイエンド機種を中心に販売好調。

### フラットパネルディスプレイ材料

1,583億円（前年比：18%増）

- 中国政府の内需振興政策を中心に液晶テレビの需要が伸長。旺盛な「フジタック」の需要により売上が好調に推移。

### 情報・産業機材

997億円（前年比：27%減）

- 光学デバイス分野では、カメラ付き携帯電話用レンズユニットは受注回復傾向。
- 国内外大手半導体メーカー向けArF液浸レジストの採用も固まり、今後先端分野の販売も堅調に推移する見通し。

\*「ゾシン」：肺炎、敗血症、腎盂腎炎、複雑性膀胱炎に用いる注射剤、\*\*「ジェニナック」：呼吸器、耳鼻科領域の感染症に用いる経口剤

13

当部門の各事業の状況はご覧の通りです。

メディカルシステム事業は、世界同時不況の影響や、フィルム需要の縮小などにより売上が減少しました。新興国市場で先行して発売しました低価格・小型「FCR PRIMA」の販売を国内、米国、欧州にも展開し、拡販を推進しております。また、X線量低減と高画質の両立を実現した、デジタルX線画像診断装置「CALNEO」シリーズを発売する等、高付加価値製品の拡販も推進しております。

ネットワークシステム分野では、医療機関のIT化の進展に伴い、売り上げは順調に拡大しています。医用画像情報ネットワークシステム「SYNAPSE」は、国内約1,200以上の施設に導入されており、トップシェアを保持しております。「SYNAPSE」は、放射線部門のみならず、循環器、内視鏡、超音波、病理部門など院内全体の様々な検査画像を統合する統合ネットワークシステムとして機能を拡大しております。

ライフサイエンス事業では、富山化学の売上が増加したことに加え、化粧品やサプリメントを中心としたヘルスケア製品の売上も増加しました。

グラフィックシステム事業は、出版物や、新聞紙面の減少などの影響により売上が減少しましたが、中国・東南アジアなどでは需要が回復しております。また、成長分野であるデジタルプリンティングの分野では、ワイドフォーマットUVインクジェットシステムがハイエンド機種中心に販売好調であり、引き続き当分野における拡販を強化していきます。「高速」「高画質」「大サイズ」を実現した画期的な次世代インクジェットデジタル印刷機「Jet Press 720(仮称)」は2009年10月開催の「JGAS 2009」において国内初出展し、高い評価を得ました。発売は、今年の春を予定しております。

フラットパネルディスプレイ材料事業は、中国政府の家電普及政策による液晶テレビ需要の拡大などにより期首より「フジタック」の販売が急回復し、売上が好調に推移しております。

情報・産業機材事業は、カメラ付き携帯電話用レンズユニットなどの需要が回復傾向にあります。また、国内外大手半導体メーカー向けArF液浸レジストの採用も固まり、今後先端分野の販売の拡大が期待できます。

### フラットパネルディスプレイ材料

#### 「WVフィルム」新工場本格稼働(2009年7月～)

- ✓伸長する新興国の液晶テレビ需要に対応
- ✓WVフィルムの生産能力を増強し、安定供給体制を整備。

#### 「フジタック」第3工場第2ライン稼働(2009年12月～)

- ✓当初計画通り富士フィルム九州の3工場6ラインが全て稼働。
- ✓生産能力はフジタックで680百万㎡。



WVフィルム第9工場

### 医薬品

(参考資料P.28)

#### 富山化学の9か月累計の売上が対前年33%増

- ✓「ゾシン」、「ジェニナック」の販売が好調に推移

#### 「オゼックス細粒小児用15%」発売(2010年1月12日～)

- ✓難渋している小児の肺炎・中耳炎の治療に新たな選択肢

#### インフルエンザ治療薬「T-705」 国内でフェーズⅢ臨床試験開始(2009年10月29日～)



ゾシン



ジェニナック

次に、インフォメーションソリューションの今年度の主なトピックスについてご説明します。

フラットパネルディスプレイ材料事業は、新興国を中心に伸長する液晶テレビやPCモニターの需要に対応するため、2009年7月には「WVフィルム」第9工場を稼働させました。また、12月には「フジタック」の第3工場第2ラインを稼働させました。

医薬品は、富山化学工業の「ゾシン」や「ジェニナック」の販売が好調に推移し売上高が対前年比**33%増**となりました。

今月12日より、難渋している小児の肺炎・中耳炎の治療に新たな選択肢として期待を寄せられているオゼックス細粒小児用を発売しました。

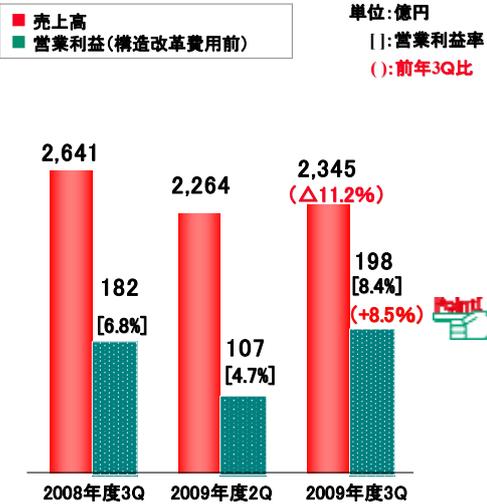
また、注目が高まっていますインフルエンザ治療薬「T-705」は、昨年10月29日より国内において臨床第Ⅲ相試験を実施中です。

# 事業別セグメント情報（第3四半期）

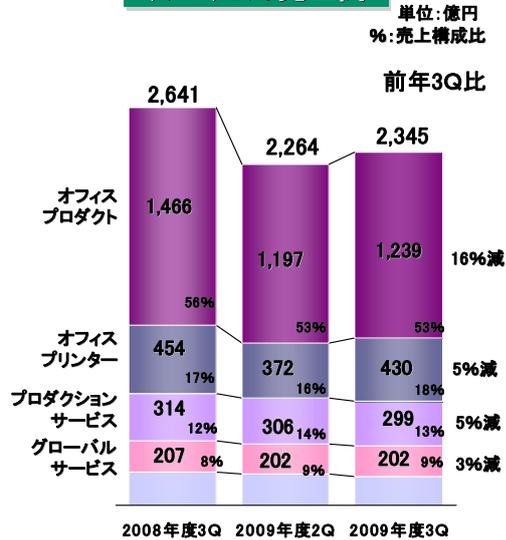
FUJIFILM

## ■ドキュメント ソリューション

### 売上高\*・営業利益



### サブセグメント売上高



\*セグメント間取引消去後

15

次に、ドキュメントソリューション部門です。

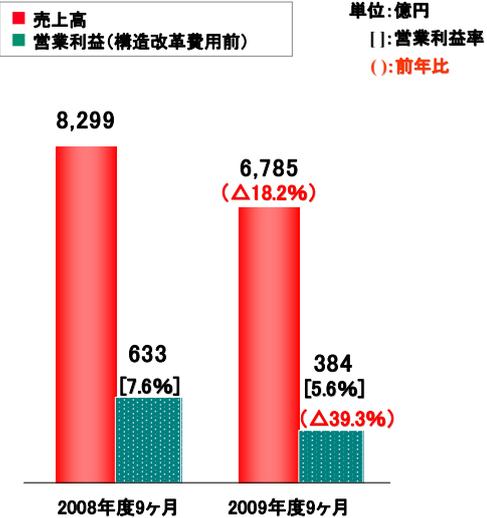
当部門の3ヶ月間の連結売上高は、中国・アジアにおけるカラー機の販売は増加しておりますが、国内等の需要の低迷が続いており、売上高は2,345億円、前年比11.2%減となりました。

国内のカラー複合機は、需要が低迷する中、新製品効果により、販売台数は前年並みまで回復してきています。一時的な影響ではありますが、セブンイレブンへのレンタル機の出荷台数まで含めると、対前年で35%の大幅増加となりました。

一方、構造改革費用前営業利益は、経営革新活動による効果も寄与し、198億円、対前年比8.5%増となりました。また、第2四半期と比べると、営業利益が大幅改善し、営業利益率も8.4%となりました。

## ■ドキュメント ソリューション

### 売上高\*・営業利益



#### 売上高

6,785億円(前年比 18.2%減)

- 需要低迷と為替の円高影響により減少したが、下期に入りアジア・中国は為替の影響を除きプラス成長となるなど一部で回復傾向。
- 為替円高影響 △321億円(△3.9%)

#### 営業利益

構造改革費用前 384億円(前年比 39.3%減)  
構造改革費用後 252億円(前年比 57.2%減)

- 原価低減、販管費の管理強化・効率化の継続により、下期において利益は改善傾向。

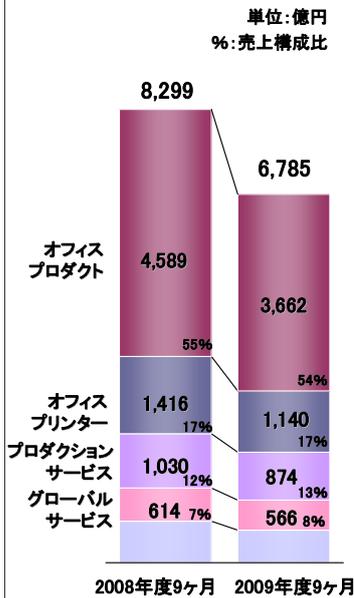
\*セグメント間取引消去後

当部門の9ヶ月累計の連結売上高は、需要の低迷による販売の減少に加え、為替の円高影響などにより、売上高は6,785億円、18.2%減となりました。

当部門の構造改革費用前営業利益は、384億円、前年同期比39.3%減となりました。

# 事業別セグメント情報（9ヶ月） ドキュメントソリューション FUJIFILM

## サブセグメント売上高



**オフィスプロダクト** 3,662億円 (前年比: 20%減)

- 国内は、企業の設備投資抑制の影響で減収となったが、コピー枚数は回復傾向。
- 米国ゼロックス社向け輸出は減少したが、アジア・オセアニア地域では中国市場での販売台数増加により前年並みの水準に回復。

**オフィスプリンター** 1,140億円 (前年比: 20%減)

- 国内は需要の減少により販売台数が減少したが、米国ゼロックス社向けカラー機の輸出は回復傾向。
- アジア・オセアニア地域は、中国及びその他アジア諸国での好調により、販売台数が大きく増加。

**プロダクションサービス** 874億円 (前年比: 15%減)

- 国内及び米国ゼロックス社向け輸出は、販売台数全体では減少したものの、ライトプロダクション・カラーシステムの販売が好調。
- アジア・オセアニア地域では、ライトプロダクション・カラーシステムの販売が好調に推移し販売台数が増加。

**グローバルサービス** 566億円 (前年比: 8%減)

- 景気悪化の影響により売上が減少したが、マネージド・プリント・サービスが伸長。

17

当部門の各事業の状況についてです。

オフィスプロダクト事業は、国内では、企業での設備投資の抑制や経費削減の影響を受け、販売台数が減少しましたが、コピー枚数は回復傾向にあります。

そうした中で業界トップの省エネ性能と卓越した機能・操作性を兼ね備えたフルカラーデジタル複合機「ApeosPort-IV/ DocuCentre-IVシリーズ」(全8機種)の販売を昨年8月から開始し好調に推移しています。

またスモールオフィス向けに「DocuCentre-IV C 2260」の販売を12月から開始し新たな市場開拓に取り組んでいます。

アジア・オセアニア地域では、中国市場で販売台数が増加に転じ、前年並みの販売水準に回復しました。低迷していた米国ゼロックス社向け輸出も、第3四半期に入り回復傾向にあります。

オフィスプリンター事業は、国内は、需要の縮小により販売台数が減少しましたが、米国ゼロックス社向け輸出は、第3四半期に入りカラー機の出荷が回復傾向にあります。またアジア・オセアニア地域では、中国およびその他のアジア諸国での販売が好調に推移し、販売台数が大幅に増加しました。

プロダクションサービス事業は、ライトプロダクション・カラーシステム「700Digital Color Press」の販売が堅調に推移しました。特にアジア・オセアニア地域では、当商品が牽引し、販売台数が増加しました。また、高画質に定評のあるEA-Ecoトナーを初めてハイエンドクラスで採用した カラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの新商品「Color 1000 Press/Color 800 Press」(全2機種)を12月に発表し、さらなるラインアップ強化を図っております。

8月以降画期的新製品を次々に発売しラインアップを強化

## オフィスプロダクト製品

ApeosPort-IV / DocuCentre-IVシリーズ(全8機種)



業界トップの省エネ性能と卓越した機能・操作性を実現！

・LED(発光ダイオード)、EA-Ecoトナーをオフィス向け商品で初めて採用

**2009年8月から販売開始**

DocuCentre-IV C2260



スモールオフィス向け商品を強化し、中・小規模事業所市場へ本格展開！

・EA-Ecoトナーを採用し、小型で基本性能に優れ高いコストパフォーマンスを実現

**2009年12月から販売開始**

## プロダクションサービス製品

Color 1000 Press / Color 800 Press(全2機種)



さらなる高画質、高生産性、高安定性を実現し、プロダクションカラープリンティング市場を牽引！

・EA-Ecoトナーをハイエンドクラスで初めて採用。

・薄紙から厚紙まで用紙対応範囲を拡大

**2010年1月29日以降順次販売**

ご説明したように、富士ゼロックスでは8月以降、スライドNo.18に示しますように革新的商品を次々に発売し、ラインアップを強化しています。

これらの商品は、従来より低い定着温度による省エネと高品質を実現した独自のEA-Ecoトナーを採用しており、強い競争力を発揮しています。

## 富士ゼロックス経営革新活動の加速

FUJIFILM

強靱な企業体質への変革と競争力強化を目指し  
開発・生産機能を再編・統合 開発、生産新会社を設立  
事業構造の変革を加速

(参考資料  
P.29)

R&D機能の再編・集約

技術力・顧客対応力の強化

「富士ゼロックス」と新会社「富士ゼロックスアドバンステクノロジー」を軸に、  
全国5拠点に分散しているR&D機能を再編し、新拠点「みなとみらい21」に集約

【富士ゼロックス】

商品開発、プラットフォーム、マーケティング技術、新規技術開発に集中

【富士ゼロックスアドバンステクノロジー】

画像読み込みや紙送り、FAX機能や後処理装置等のモジュール開発、顧客要求に迅速に対応するカスタマイズ開発

生産機能の最適化

コスト競争力強化

新会社「富士ゼロックスマニュファクチュアリング」に生産機能を統合

- ・複数拠点で生産している粉砕トナー等の生産を竹松事業所に集約
- ・プロダクション商品を中心とした高技能型生産を、新潟事業所(旧新潟富士ゼロックス製造)に集約(オフィス向けプリンター生産を中国に全面移管)
- ・各社が分散して保有している間接機能を集約

19

昨日、富士ゼロックスの経営革新活動を発表いたしました。ドキュメント事業の事業構造を強化するために、「R&D機能の再編・集約」と「生産機能の最適化」を図ります。再編の概要は、スライドNo.29をご覧ください。

「R&D機能」については、分散している関連会社のR&D機能を集約し、富士ゼロックスをベースとした組織と、新会社である「富士ゼロックスアドバンステクノロジー」の二つに大きく再編し、それぞれの担当領域を明確にすることで、生産性や技術力の向上、顧客対応力の強化を図ります。同時に 成長・強化領域にリソースを投入します。

また、「生産機能」については、生産機能を新会社「富士ゼロックスマニュファクチュアリング」に統合し、徹底的に生産性を改善するとともに生産技術や製造現場における技術を強化することで、業界ナンバーワンのコスト競争力の実現を図ります。

具体的には、複数拠点に分散する粉砕トナー等の生産を新会社の竹松事業所へ集約し、プラント稼働率を向上させます。

また オフィス向けプリンター生産を中国に全面移管して、量産化、コスト競争力強化を図ります。

プロダクション商品などの高技能型の生産は同社新潟事業所に集約して技術力の強化を図ります。

そして 各社が分散して保有している間接機能を集約し、効率化を図ります。

## 2009年度 通期業績予想修正

FUJIFILM

	2009年度 修正予想		2009年度 10/30予想		対前回予想		2008年度 実績	
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	21,700	100.0%	23,000	-1,300	-5.7	100.0%	24,343
構造改革費用前 営業利益	3.7%	800	2.4%	550	250	45.5	2.9%	708
構造改革費用	6.7%	1,450	6.3%	1,450	0	-	1.4%	335
構造改革費用後 営業利益	-3.0%	-650	-3.9%	-900	250	-	1.5%	373
税金等調整前 当期純利益	-3.1%	-680	-4.0%	-930	250	-	0.4%	94
当社株主帰属 当期純利益	-2.4%	-520	-2.6%	-600	80	-	0.4%	105
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益		-106.43円		-122.80円		16.37円		21.10円
為替 :米ドル		93円		93円		-		101円
:ユーロ		131円		132円		-1円		145円

為替感応度(年間/対営業利益)US\$ 6億円 ユーロ 5億円

20

最後になりましたが、業績予想についてご説明します。

事業を取り巻く環境は依然として厳しく、先行きは不透明な状況が続いております。当社の主要事業におきましても、景気後退に伴い減少した需要の回復が遅れており、売上は計画を下回って推移しています。一方で、損益に関しましては、競争力の強い商品の拡販を推進したことや、グループ全体・全事業において、構造改革を断行し、徹底したコストダウン・経費削減を推進したことにより、想定を上回るペースで利益の改善が進みました。

これらの状況を踏まえた上、第4四半期の見通しを加味し、売上高に関しましては通期の業績予想を下方修正し、利益に関しましては上方修正を行いました。

なお、第4四半期の対米ドル円為替レートは90円、対ユーロ円為替レートを125円で想定しております。

以上、第3四半期決算概況と業績予想修正についてご説明致しました。

# 参考データ

FUJIFILM

## ■ 海外売上高

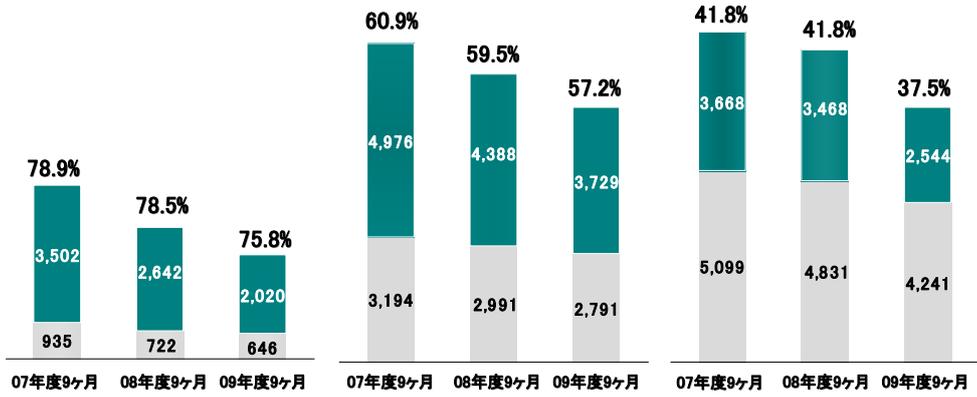
(単位: 億円)

イメージング

インフォメーション

ドキュメント

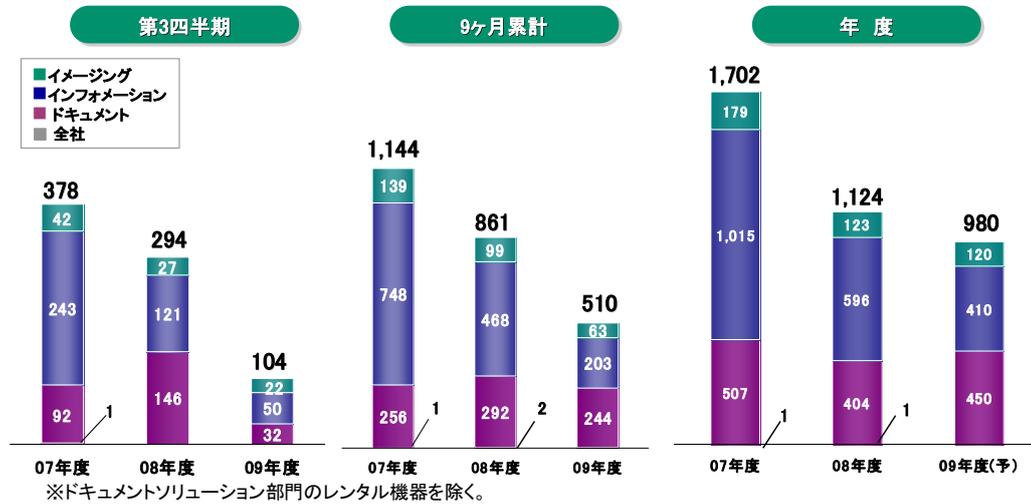
■ 海外売上高、構成比%  
■ 国内売上高



<当スライドは配付資料です>

■ 有形固定資産の設備投資額※

(単位:億円)

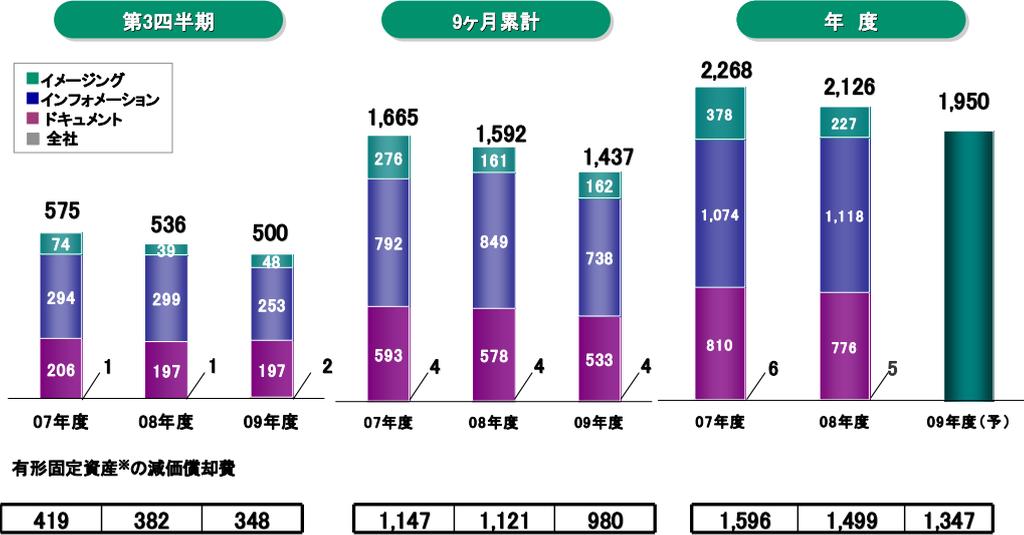


<当スライドは配付資料です>

# 参考データ

## ■ 減価償却費

(単位: 億円)



※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く

<当スライドは配付資料です>

■ 研究開発費

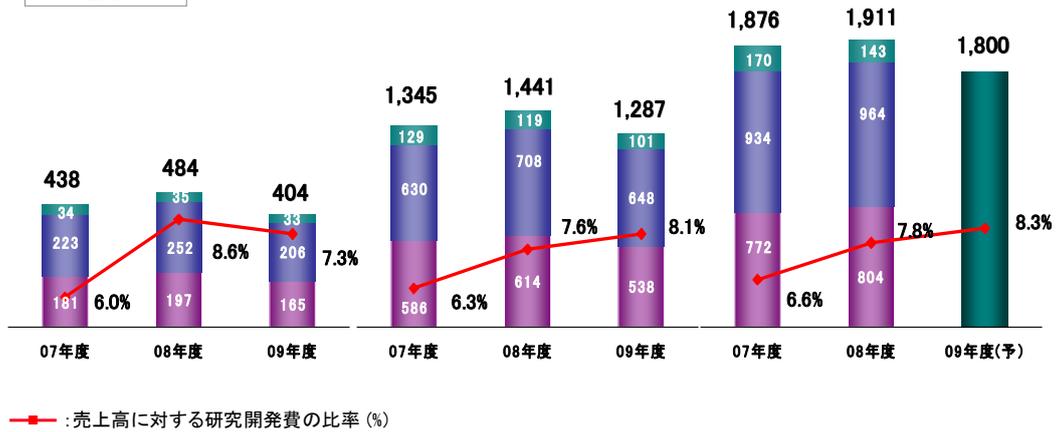
(単位:億円)

第3四半期

9ヶ月累計

年度

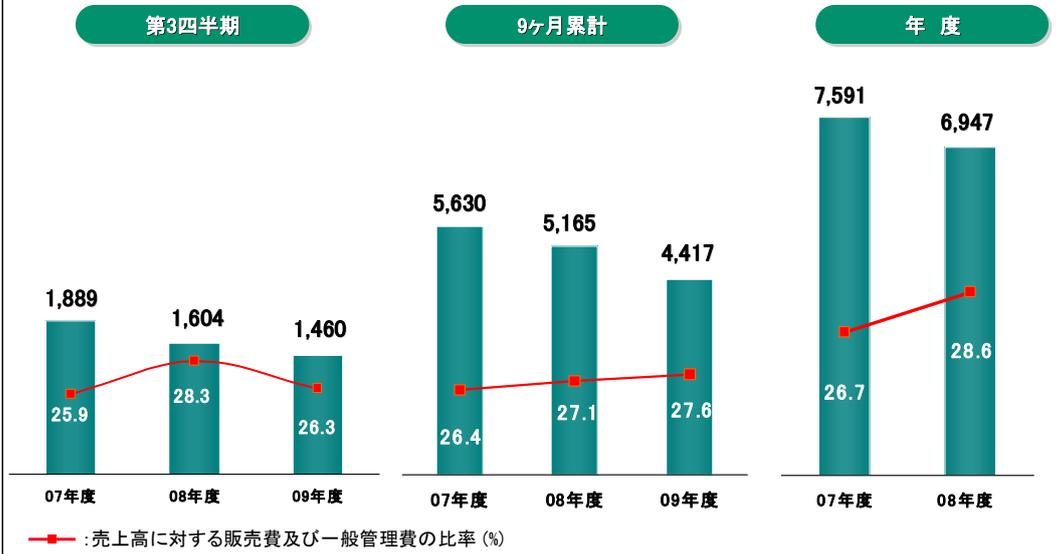
- イメージング
- インフォメーション
- ドキュメント



<当スライドは配付資料です>

■ 販売費及び一般管理費

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

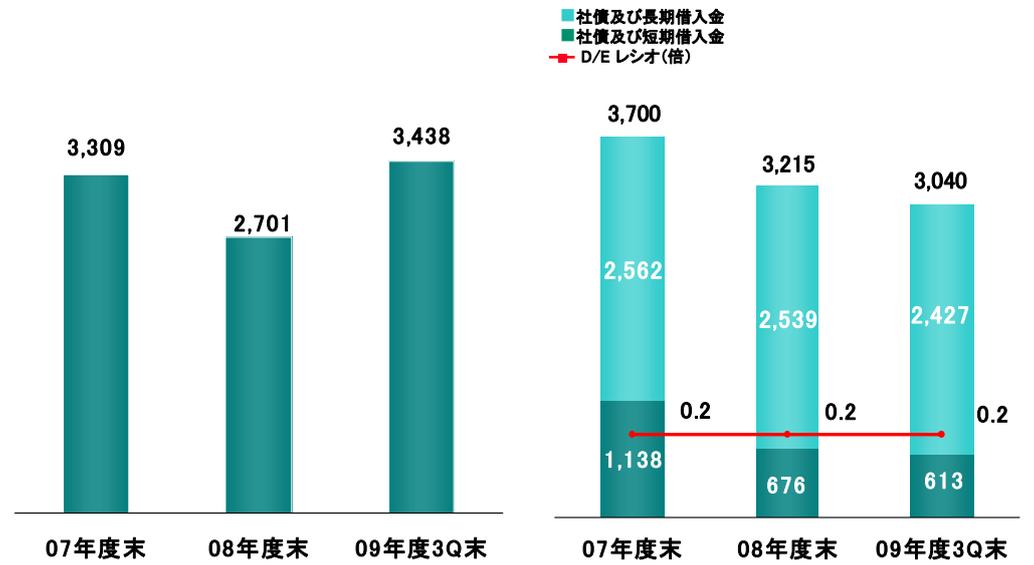
# 参考データ

FUJIFILM

## ■ 現金及び現金同等物

## ■ 有利子負債

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

## 参考データ

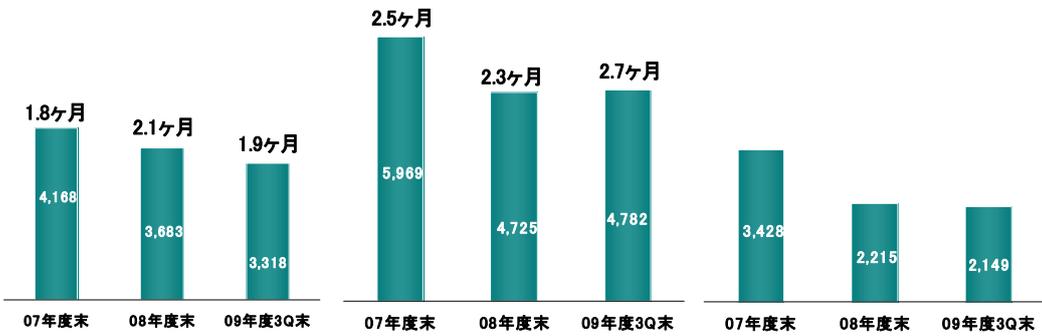
FUJIFILM

### ■ 棚卸資産

### ■ 受取債権

### ■ 支払債務

(単位:億円)  
(保有月数)



<当スライドは配付資料です>

■ 富山化学工業(株)新薬開発スケジュール

開発番号	薬効	地域	開発段階					剤形
			非臨床試験	P I	P II	P III	申請	
T-3762	ニューキノロン系合成抗菌剤	日本						注射*
T-614	抗リウマチ剤	日本						経口
T-3811	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	日本						注射**
		米国						経口/注射
		欧州						経口/注射
T-705	抗ウイルス剤	日本						経口
		米国						経口
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	米国						経口
T-5224	抗リウマチ剤	日本						経口
		海外						経口
T-2307	抗真菌剤	米国						注射
T-1106	抗ウイルス剤	日本						経口

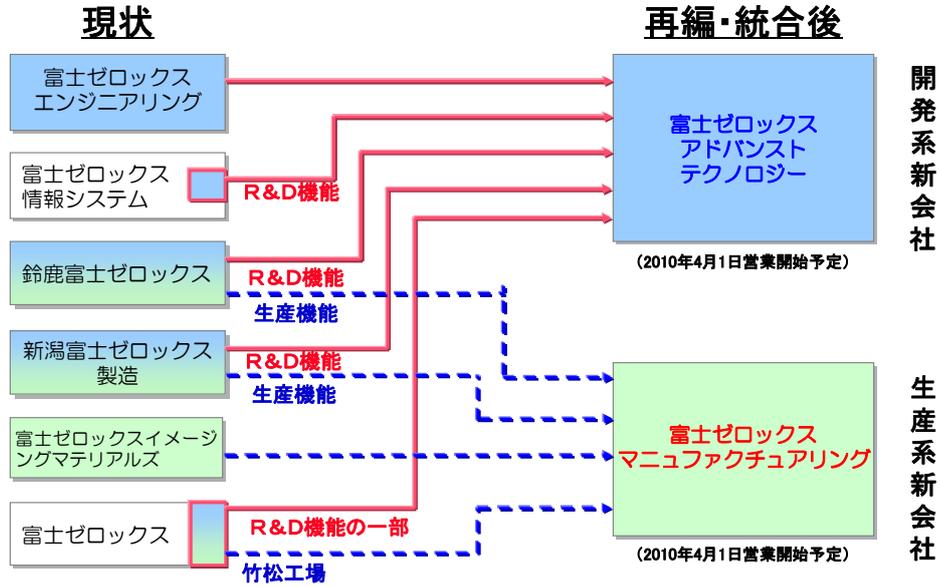
\* 発売中の「バシル点滴静注液」の用量追加

\*\*経口剤は「ジェニナック錠」として発売

※前回(2009年10月30日)公表時からの変更点: T-3262細粒(オゼックス細粒小児用15%) 2010年1月発売のため表より削除

<当スライドは配付資料です>

■ 富士ゼロックス R&D・生産機能の再編・統合



<当スライドは配付資料です>

■ 為替、人員

● 為替

(単位:円)

	2008年度						2009年度					
	9ヶ月					4Q	9ヶ月					4Q 予想
	1Q	2Q	3Q				1Q	2Q	3Q			
米ドル	104	108	97	103	94	101	97	94	90	93	90	93
ユーロ	163	162	128	151	124	145	133	133	133	133	125	131

\* 為替感応度(年間) (1円の変動につき)

	営業利益
米ドル	6億円
ユーロ	5億円

● 人員

	2008.12末	2009.3末	2009.6末	2009.9末	2009.12末
連結	78,203	76,252	75,929	75,938	75,333

605人減

<当スライドは配付資料です>

# FUJIFILM

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、  
最高品質の商品やサービスを提供する事により、  
社会の文化・科学・技術・産業の発展、  
健康増進、環境保持に貢献し、  
人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>